

観 点 ・ 小 問 ご と の 分 析	対 策 の 視 点
<p>える(2)の正答率45%は、前問より低い。これも設問の意味を取り違えたためか、誤答例としては「エ」の文を選んだものが目だつ。</p>	<p>な指導が望まれる。</p>
<p>2. 都道府県別人口増減図の読み取り 人口が、いちばん増えた埼玉県を選ぶ(1)の正答率は48%で、誤答例として東京都・神奈川県が目だつ。東京都と間違えて答えたものは、東京都は人口が、いちばん多いから増えるのもいちばん多いであろうと地図を見ないで答えたか、あるいは東京都の位置がわからないためと思われる。 人口が減った県に共通した特色を答える(2)の正答率は62%で、誤答例は選択肢の「イ」が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 統計地図の読み取りの基本となる表題、凡例の意味するものを的確に指導し、日常生活の中に地図帳を使う機会を多くしたい。</li> <li>◦ 都道府県の名前と位置をしっかりと押さえることは地図利用の第一歩である。地図帳を活用する機会を多くし、白地図での反復練習が望まれる。</li> </ul>
<p>3. 三つの帯グラフの読み取り（我が国の工場数、工業従事者、工業生産額） 重化学工業の工場数を答える(1)の正答率は54%である。誤答では化学工場数の比率を見落とした例が多い。 工業従事者数が、最も多い工業の種類を選ぶ(2)の正答率は78%である。誤答例では重化学工業を選んだものが多い。これは設問の「5種類の工業のうち」という条件を見落としたためと思われる。 工場数の割合にくらべ、生産者額の割合が最も多い工業の種類を選ぶ正答率は45%である。誤答例としては、機械工業を選んだものが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 割合を示す帯グラフを読み取る場合には、パーセントの意味を算数と関連づけて指導するとともに、総数に対する項目の比率をもとにその項目の実数を算出させるなど指導上の工夫が望まれる。</li> <li>◦ 二つのグラフを比率の点で比較して、その関連を読み取る問題は、読み取りの程度が高いので、個別指導の機会を多くするなど指導上の配慮が必要である。</li> <li>◦ 指導のねらいに即して統計数値をグラフ化させる機会をもたせると社会的事象の読み取りが高まり、学習意欲も向上すると思われる。</li> </ul>
<p>4. 降水量の分布図、気候グラフの読み取り 1月の降水量分布図を参考にして富山市</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 分布図は、分布の中心と限界に注目させて読み取らせる。</li> </ul>